

こんな

すてきな人に

会って来ました

川合澄枝 さん

地域に根づく「たいやき屋」から

東京都調布市には京王線、甲州街道、品川通りなど、東西に横断する幹線が多くあります。「夢のある街のたいやき屋さん西調布店」はその品川通り沿いにあり、地域の住民の方々にとっては生活に密着した口ケーションです。また、この辺りは多摩川河川敷へも歩いていける位置にあり、多くの人がジョギングやサイクリングで行き交うような所でもあります。

今号はその「たいやき屋さん」の店長を務める川合澄枝さんに入スポットライトを当てました。元氣いっぱい、周りを明るくさせる、とてもパワーのある方です。

みんな一度はお店の中に入れてみて
たくなる

川合さんをはじめスタッフの方は、本当に気持ちのよい挨拶をします。挨拶の声は店内だけでなく品川通りにも聞こえてくるようです。挨拶の声と一緒に「たいやき屋さん、今日は何でたいやき屋さん」とすてきなメロディも流れていて、歩いている人を「一度店内に入れてみようか」という気持ちにさせます。

川合さんは2007（平成19）年4月に株式会社福祉ベンチャーパートナーズに入社しました。その後「ほのぼのたい焼き事業部」に所属し、同年9月の西調布店開店を経て現在に至ります。後述しますが、入社する前からこの地域での福祉のかかわりがありました。



保育士をめざしていた

川合さんは「もともと保育士になりたかったんです」とのこと、学生時代は保育士養成課程のある学校に通っていました。本人も当然そのまま保育士になるつもりでしたが、ある時「読売光と愛の事業団」のボランティアに参加し、重症心身障害児と接した時から目標が変わりました。

「彼らと初めて接した時に感じた、見たままの情報をそのまま伝えようとする姿勢にとても興味が湧いてきました」

ある重症心身障害児と、手のひらを見せながら向かい合ってレクリエーションをしていたら、「普通なら手のひらを見せるところを手の甲を見せて、レクリエーションのまねをしてくれた」ことが新たな発見になったようです。それからは、彼らの感性にもっとふれあいたくて、この道に進んでいこうと思ったそうです。

ヘッドハンティング!?

その後、重症心身障害児（者）施設勤務を経て、川合さんは社会福祉法人調布市社会福祉事業団の知的障害者通所授産施設「すまいる」に勤務しました。たいやき屋さん西調布店から遠くない距離にあります。

ここでは「バイバイプロジェクト」に携わりました。このプロジェクトは外部コンサルタントを導入することにより、月額の手賃を3年間で5万円にしようというもので、利用者の方々の経済的自立や仕事へのやりがいを目指しました。それまで3つあった作業種目



国産大豆のみを使用した「つぶあん」。丹精込めてつくっています

をパン製造販売1つに絞り、近隣の企業や大学で販売することになりました。「おいしいパンを作れば、他のお店には負けない！」と次々と販路を開拓し、営業を重ねました。多い日は1日10万円の売上にもなりましました。その結果、無事売上目標を達成し、利用者の工賃を5万円にすることができました。

その際、コンサルタントとしてかかわったのが、現在の(株)福祉ベンチャーパートナーズ代表取締役の大塚由紀子さんでした。この時、川合さんも福祉という世界に経営が必要なのだと実感することになりました。その後も「いろいろと勉強させていただいた」(川合さん)中で、「たい焼きの製造工程が障がい者に適している作業か」を一緒に検討しました。

おそらく確実な仕事ぶりが評価されたのでしょうが、程なく川合さんは株式会社福祉ベンチャーパート

ナーズに入社しました。川合さんは謙遜して言います。「大塚社長からヘッドハンティングしたなんて今まで一度も言われたことはありませんよ(笑)」と。

徹底した現場主義

西調布店には現在、11名のスタッフがいます。そのうち障がい者の方は3名。福祉畑が長い川合さんのことですから、障がい者の方向けにマニュアルを準備していると思いきや、「特別に準備しているものはありません。多少、気を遣うこともありませけれど」とのこと。「障がいというよりは個性だと思っています。ただ、あまり怒らず、褒めるようにはしています」その時の現場の状況によって、適切な対応をとるよう心がけている様子です。

スタッフの1人、川合さんの右腕であるリーダーの丸澤さんは「店長はとにかく頭の回転が速いです。同時にいくつものことができますから」と言います。「最初は障がい者の方も一緒に職場と聞いて、ちょっと気にしたことはありませんが、実際に接してみても何の問題もなかったです」と続けます。また、別のスタッフの矢原さんは「店長はやさしく教えてくれるので助かっています。もったいい生地を作っていきたいです」と言いますが、川合さんの現場重視の姿勢や人柄からくる信頼感がコメントからも感じ取ることができ

世界一の「たいやき屋さん」へ

スタッフ全員で取り組んでいることがあります。お客様への接客・挨拶を笑顔で行うことです。笑う門に

は福来たるではないですけど、お客さんに気持ちよく来店してもらうためには必要なことです。

今、川合さんの中で、2つの課題があるそうです。1つは自分だけで仕事を片づけられないようにすること、もう1つはスタッフ全員にオールラウンドプレイヤーになってもらうためにマネジメントすることです。

例えば、障がい者の方には、生地づくりならそれだけ、形づくりならそれだけといったように、時折1つの仕事を掘り下げられる特性があります。それによる分業制によって、業務の効率化が図られることもあるでしょう。けれど、「それをしてしまうと、この人はここまでという線引きをすることにつながってしまうのでしません」と川合さんは強く言います。可能性が無限であるのは、スタッフもお店も同じ。世界一のたいやきと世界一の笑顔をめざすためにはリミットなどありません。

みなさんもこのようになすばらしい笑顔を絶やさない、元氣あるスタッフが作ったおいしいたいやき屋さん一度足を運んでみたらいかがでしょうか。

【プロフィール】

かわい すみえ

- ・(株)福祉ベンチャーパートナーズ ほのぼのたい焼き事業部 所属
- ・夢のある街のたいやき屋さん西調布店店長として、店舗マネジメントに携わる
- ・ご出身は東京都目黒区。最近は稲城市にご在住。
- ・休日は自宅や店舗の周辺を散歩することが多いそうで「あまりじっとしていられないのが性分みたいです(笑)」とのこと。

※協力

株式会社福祉ベンチャーパートナーズ
(代表取締役：大塚由紀子)
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-2 ニコビル2階
TEL:03-3511-0048 FAX:03-3511-0047
URL <http://www.fvp.co.jp/>
E-Mail info@fvp.co.jp
夢ある街のたいやき屋さん 西調布店
182-0034 東京都調布市下石原 3-31-1
TEL & FAX : 042-439-6136
URL <http://www.fvp.co.jp/taiyaki/>